大井町立相和小学校　学校通信

そうわ通信 2月号

発行日
平成31年2月20日

発行者
中山　喜幸

You are OK！　We are OK !!　I am OK !!!

「全校Ｅタイム」：英語活動をとおして、目と目を合わせ笑顔を交わす

「全校Ｅタイム」は、全相和っ子が集まり英語活動を行い楽しむ時間です。２月８日（金）に第１回を、15 日（金）に第２回を行いました。

担当の先生が屈託ない明るさと元気さで、子どもたちに英語で問いかけます。先生の発している英語表現の全てを理解することは、低学年にとっては難しいこととは思われますが、先生の明るさに引き込まれ自然と笑顔になり楽しい雰囲気になります。そうすると、子どもたちは英語表現で話されている中から、いくつかの単語・音を聞き取ろうとします。このように、英語表現に聞き慣れること、注意して聞き取ろうとする気持ちを大切にします。

先生が子どもたちに話す内容は、クイズや、チャンツ（英語の文章を一定のリズムに乗せて歌うもの）です。子どもたちは、大きな画面に映し出される写真や日本語、そして、先生のジェスチャーを参考にします。時には、先生同士の楽しい英語表現でのやりとりもあります。

英語表現に聞き慣れるだけでなく、英語でクイズに答えたり、歌ったり、ゲームをしたりします。このとき、子どもたちは、自分が聞こえたように英語を発します。そこでは、上手に話せたかが大事ではなく、相手に伝わったかが大切になります。多少のズレや足りないところは、互いに補い合ってコミュニケーションを図ります。それは、楽しい雰囲気の中での活動・遊びだからです。１年生から６年生までが、一緒になって楽しむのですから、足りないところ、不完全なところは自然と補い合ってコミュニケーションをとるようになります。つまり、「You are OK ！」のメッセージを互いに発していることになります。

そうした雰囲気の中で楽しく活動し遊びながら、子どもたちは目と目を合わせて笑顔を交わします。上手であるとか、正しくできたかというようなことを、子どもたちが求めるようにしようとは考えていません。「楽しくできたか」を求める活動であってほしいと考えています。但し、自分一人の楽しさだけではなく、「あなたも楽しい」「みんなが楽しい」と言うことが大切であることを意識するようにしたいと思います、つまり、「We are OK!」の感覚を子どもに体験してほしいと考えています。そして更に、「I am OK!」という自己肯定感を醸成していけたらと考えています。

第３回は、３月１日（金）に行います。これが本年度最後の「全校Ｅタイム」となり、３月に卒業する６年生が集会をリードします。６年生は、１年生から５年生の在校生に向かってメッセージを込めた集会にしようとしています。また、この取り組みは来年度、更に充実させたいと考えています。

今年度最後の『長なわ集会』

全校の前で見せた６年生の「すごさ」　～ほんとうに　たいせつなもの～

今年度最後となる「長なわ集会」を２月 14 日（木）に行いました。今年度２回目となり、どの学年も目標に向かって取り組んできたこともあり上手に跳んでいました。しかし、そのことよりも、これまでの取組みの成果と思われることは、友達がひっかかってしまったときに、「どんまい」「きりかえ、きりかえ（気持ちを）」という言葉が、いろいろなところから聞こえてきたということです。また、ミスが続き思うように回数が伸びないときでも、「さいごまで、さいごまで」という声も聞こえてきました。

集会では、１・３・５年が初めに跳び、その後に２・４・６年生が跳びます。それを２回繰り返します。但し、６年生の２回目のチャレンジについては、全校の前で跳びました。６年生はそれまでの記録 408 回を上回り、410 回という記録を出すことができました。一列になって、回る縄の中を次から次へと跳んでいきます。まわしている縄が見えません。

そんな６年生でも、ミスをしないで跳ぶということは、なかなか難しいようで、何回か引っかかってしまい、一瞬縄の回転が止まることがありました。しかし、「どんまい。きりかえ！」と引っかかった子どもは、すばやく抜け、縄をまわす二人は呼吸をあわせすぐに縄をまわし始め、そのタイミングに合わせて後の子どもが跳んでいきます。ロスタイムが驚くほどに短く感じました。

速く縄を回せば回すほど、ひっかかってしまうリスクは高くなります。６年生は、それに挑戦しました。ですから、ひっかかってしまった友達を責めることはしません。大切なのは、ひっかかってしまったなかまが気を落とさずに、ロスタイムをなるべく短くすることが大切であると意識しているようです。そうしたチームとしての力を発揮できるのが６年生の絆だと思います。そして、それが６年生の「すごさ」です。それを全相和っ子が見ていました。今、６年生は「420 回」を目標にしているようです。

【心あたたまる話】　「くじらぐもの手紙」

「おーい！くじらぐもー！」
「あれ、やろうよ。」
「天までとどけ、１、２、３。」

１年生の子どもたちがこのように楽しそうにしていました。このとき、校庭の真上あたりに白く大きな雲がゆっくりと流れてきていました。この様子を見ていた担任は、次の日、児童数で配付する物の中に、子ども一人一人に宛てた「くじらぐもからのお手紙」を紛れ込ませました。子どもたちのこれまでのがんばりを褒め、これからのことを応援する内容のものでした。

子どもたちは、すぐに「くじらぐもからのお手紙」に気づきました。「これ、先生が書いたんじゃないの？パソコンの字だし…。」という反応もありましたが、「ぼくたちの手紙を読んでくれたんだね。」「昨日、くじらぐもが来てたじゃん。手紙を届けに来てくれたんだよ。」と、子どもたちは物語の続きを豊かに想像しているようでした。

次の日、ある子どもが、「ぼくの手紙の中に先生への手紙が入っていたよ。」と言いながら、担任へ右のような手紙を手渡しました。

子どもたちと先生、心の豊かさを感じます。「くじらぐも」は、いつも空にあることと思います。

○○せんせいへ

○○せんせい　おしごと　がんばっているね。まい日　がんばってね。せんせい、つかれているでしょ。そしたら、ぼくにのっていいよ。いつか、せんせいに　あえるよ。せんせいのことわすれないよ。

くじらぐも　より